お祭りでんでん館の情報や、八代市のお祭りや民俗芸能の魅力を発信！

DENDEN

Take Free

2022
12
December
No.12

笠　鉾

蜜柑

- Kasaboko Mikan -

笠鉾の一番上の蜜柑は、八代特産の小粒で甘みの多い高田蜜柑（こうだみかん）です。江戸時代、徳川将軍家に「八代蜜柑」として献上されていました。そのため、高田蜜柑は厳重に管理され庶民の口には入らないものでした。かつては、蜜柑の他に中国の二十四孝（にじゅうしこう）（中国で古来から知られている孝子 24 人の話）の中の伝説の皇帝、舜（しゅん）の話を元にした「象に唐子（からこ）」の飾りもあり、交互に使用していたようです。笠鉾蜜柑の上屋根と下屋根の間の部分は、奥行きのある構造で、たくさんの装飾が施されています。笠鉾蜜柑の見どころの一つです。じっくりご覧ください。また、蜜柑の実も今年塗り替えられたばかりです。2 階のお宝ギャラリーからも笠鉾をご覧ください。

【 笠鉾 蜜柑　1/7(土)まで展示 】

お祭りでんでん館（八代市民俗伝統芸能伝承館）〒866-0863 熊本県八代市西松江城町1番47号
TEL 0965-37-8737　FAX 0965-37-8738　MAIL bunka@city.yatsushiro.lg.jp

10 月からインターネットで会議室の予約ができるようになりました！

民俗芸能の魅力紹介～植柳盆踊りと棒踊り～

12/20 から お祭りでんでん館 2階 お宝ギャラリーにて展示

植柳の民俗芸能といえば、8月14日に「植柳ふるさと祭り」で行われる「植柳盆踊り」です。植柳盆踊りは、八代市内の広い地域で行われている盆踊りの中で唯一、国選択無形民俗文化財となっています。この盆踊りの魅力の一つが、保存会の女性の衣装です。白装束に黒帯、黒頭巾という独特の姿は、亡くなった人を彷彿とさせることから、別名「亡者踊り」ともいわれています。

植柳盆踊りの魅力はこれだけではありません。12月20日（火）から、お祭りでんでん館2階お宝ギャラリーで、衣装や盆踊りの唄を記した口説き本、映像などを展示し、植柳盆踊りの魅力を紹介します。また、植柳に伝わるもう一つの民俗芸能「植柳棒踊り」についても併せて紹介します。

植柳盆踊りをまだ知らない方も、植柳ふるさと祭りや小学校の運動会で踊ったことがある方も、この機会にぜひご来館ください。

植柳盆踊り（上・左下）　植柳棒踊り（右下）

今月の水引幕 － 笠鉾 蜜柑 －

「金襴地海原に飛鶴模様繍水引幕」

笠鉾蜜柑の水引幕じゃ。笠鉾蜜柑は、今は紐を編んだ網のような幕を使っておるから、この水引幕はみんなも見たことがないじゃろ？幕の箱に書かれた記録から、昭和 8 年に大阪の高島屋に注文して作った幕だということがわかっておる。今から 89 年前じゃ。

幕の模様は、海の上を飛ぶ鶴じゃ。鶴は、古代中国では仙人の乗り物、不老長寿の象徴と考えられていたんじゃよ。日本でも中国の影響を受けて、1000 年の寿命を持つ瑞鳥（おめでたい鳥）とされておるんじゃ。鶴は千年、亀は万年と言うなあ。めでたい。めでたい。

この水引幕は、1 月 9 日（祝）までの展示じゃ！

でんでん館のヒミツ ～笠鉾にまつわる植物～

でんでん館には、低木から高木までたくさんの木が植えられています。その中には、笠鉾にまつわるものがいくつかあります。そのひとつが、笠鉾蜜柑の「高田蜜柑」です。蜜柑は「非時香菓（とぎじくのかのこのみ）」という不老不死の仙薬であるともいいます。

当館の蜜柑は、笠鉾を奉納している中島町笠鉾蜜柑保存会の皆さんが植樹されたものです。実った実は妙見祭の神幸行列の際、沿道のお客さんに振る舞われます。

また、笠鉾蘇鉄の「蘇鉄」も植えられています。お祭りでんでん館に来られた際には、探してみてください。

笠鉾蜜柑の「高田蜜柑」

笠鉾蘇鉄の「蘇鉄」

お祭りでんでん館の妙見祭

3年ぶりに開催された妙見祭は、でんでん館が開館して初めての妙見祭でした。あいにくの雨模様となってしまいましたが、みなさんは見に行かれましたか？

笠鉾 9 基の部材が収納されているでんでん館では、11 月 20 日に午前と午後に分けて笠鉾の組立が行われました。組み上がった笠鉾は、でんでん館やアーケードなどに置かれ、22 日に御夜の会場に勢ぞろいしました。

11/23 笠鉾 解散式

11/20 笠鉾 組立

妙見祭当日は、午後5時30分からでんでん館前で解散式が行われた後、笠鉾菊慈童と本蝶蕪はすぐに解体、他の笠鉾は展示室と多目的室に置き、翌日解体されました。雨に濡れた部材は、各収納庫内に並べて乾燥。水引幕も時間をかけて乾燥させます。

笠鉾は、多くの部材で構成され、材質も様々で、扱いには気を遣います。大切な文化財を預かっているでんでん館では、事故なく作業が行われるよう、晴天時・雨天時、笠鉾の組立・解体の場所、保管場所、雨に濡れた部材はどうするか、水引幕はどうするかなど様々な場合を想定して対応を検討しました。天気予報を見ながら一喜一憂する日々でしたが、笠鉾町内の皆さんの協力もあってスムーズに作業を進めることができ、ほっとしているところです。

11月30日現在、水引幕は乾燥中で、でんでん館の妙見祭はまだ終わっていません。

来年は晴れますように！

水引幕 乾燥中…